

## 議 会

# 施政方針

五條市長 榎 信晴



平成18年第1回定例会が3月6日に開会され、榎市長が平成18年度の施政方針を発表しました。

本日ここに、平成18年度予算案をはじめ多数の重要案件を提案して、ご審議をお願いするにあたり、新年度における重点施策を中心に所信を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

さて、日本経済は穏やかながらも堅調な回復が続いており、ようやく明るい兆しが見えてきたようであります。

しかしながら、地方自治体は、地方分権の進展や国の三位一体改革に伴う苦しい財政事情、あるいは、少子高齢化問題等、依然として厳しい環境におかれていることには変わりはありません。

そのため、私どもは、合併によって得た財政支援のある10か年を「新生五條市のまちづくり」の好機ととらえ、昨年11月、徹底した合理化と歳入に見合った計画的な歳出の削減を推進すべく、「行政改革推進本部」を立ち上げさせていただいたのでありますが、今後は、すべての事務事業を点検、かつ見直し、財政の健全化を図っていく所存であります。

その意味からも、18年度は、合併後、実質的な初年度となる大切な年であり、山積する諸課題の解決に取り組むため

にも、「新市建設計画」の基礎を、しっかりと固めていかなければならないと考えております。

何とぞ、議員各位並びに市民の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

### 行政改革の推進

それでは、平成18年度の主要施策の1番目として、「行政改革の推進」への取り組みについて申し上げます。

18年度は、行政改革の推進を最重要課題と位置づけ、行政議会のみならず、市民各位の意見を拝聴しながら、「新五條市行政改革大綱」および国の指針による「集中改革プラン」を策定し、限られた財源、人材等の資源を活用し、これまで以上に行政経営的な視点を取り入れ、質素で効率的な行政運営の新たなシステムの確立に向け、主体的に改革を進めていく所存であります。

また、21世紀の新生五條市の将来像を見据えた、計画的なまちづくりの指針となる「総合計画」については、目標年次を平成20年からの10年間とし、「新市建設計画」との整合性を図りながら、18年度から2か年計画で、市民のだけれども、「ここに住んで良かった」と実感できるまちづくりプランである「夢プラン」を策定していく所存であります。

### 新庁舎の建設

次に、2番目として「新庁舎の建設」の取り組みについて申し上げます。

ご承知のとおり、現庁舎は、建設から約45年近くが経過した中で、機能性や行政サービスへの対応性、あるいは、耐震性への深刻な懸念等の課題に直面しているという事もあり、まさに、庁舎は、市政運営の長期的ビジョンから見れば、市民ニーズの多様化・高度化、地方分権の推進など、行政需要の変化に柔軟に対応できる施設であるとともに、震災時における市民の安全を確保する防災拠点としての役割も期待されているところであります。

このことから、18年度は、建設時期、建設候補地の選定、規模等を慎重に調査、検討を行い、庁舎建設にむけて取り組んで参る所存でありますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### 交通政策

次に、3番目として「交通政策」の取り組みについて申し上げます。

昨年10月、奈良交通株式会社から、本市に係る15路線のうち、9路線のバス運行を本年10月1日から休止する旨の内申があり、このことを受けて、バス路線の存続について、県・奈良交通株式会社・関係市町村と協議を重ねて参